

トミーの週末ガーデニング

文：富山昌克



ダイコン①



なんとなくガーデニングに憧れていて、いつかやってみたいと思っている方、うっん、やっぱり花より団子(笑)という方、今回はダイコンの育て方を紹介します。ぜひ8月下旬〜9月上旬にタネまきしましょう。

栽培カレンダー

8月中旬に園芸店やホームセンターで購入しておきましょう

	8月	9月	10月	11月
タネまき	←→			
施肥		←→		
収穫				←→

タネまき後70〜80日で収穫

ダイコンは、5000年前、地中海沿岸で発祥し、日本には弥生時代に伝わりました。日本は、生産量、消費量とも世界トップです。全国各地に様々な地方品種があり、よく目にするのが青首大根。今から作るダイコンが冬の旬になるものです。

生育適温が20℃前後と冷涼な気候を好みますが、発芽から本葉2〜3枚の頃までは暑さにも寒さにも強いですが、根が肥大し始める本葉15枚頃から暑さ、寒さに弱くなりますので、適期にタネまきすることが重要です。苗が小さいうちでも10℃以下の低温(5℃前後)に2週間ほど遭つと、花芽ができトウ立ちして、根の肥大が妨げられるので、遅まきにならないようにしましょう。

大根十耕

まつすべな大根を収穫するには、あらかじめ土をよく耕して、タネを直播します。ダイコンを作るときは、畑を10回耕せといういわれ(大根十耕)があります。小石や土の塊や肥料の塊が根が当たると変形して「又根」になってしまうので、注意が必要です。

作業手順

タネまき

30cm間隔で、深さ1cmの穴をあけ、1つの穴に4粒ずつタネをまきます。少し覆土して、土表面を軽く押さえ、シヨウロでしっかり水やりします。

1週間後に発芽します。作業手順の続きは9月号で紹介します。

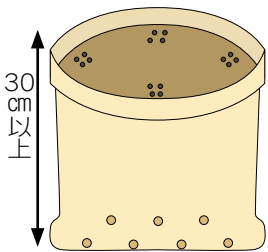
POINT

畑がない人は袋でも栽培可能です

①肥料や土が入っていた袋など、大きくて厚手のビニール袋を使います。裏返して使用すると、立てて置くのに安定性が増します。市販の花や野菜用の土を5mm目のフルイでふるって細かな土にし、裏返した袋に戻します。袋上部は折り曲げておくことで強度が増し、成長とともに土寄せ(増し土)用に伸ばして使用できます。

②20cm以上間隔をあけて、1か所につき4粒ずつタネまきし、5mmくらい覆土します。タネまき後は、底から水が流れ出るまでしっかり水やりします。

③浅い袋(容器)しかないときは、丸ダイコンを育てましょう。



5mm前後の穴を数か所あけます

コラム

大根役者

「大根役者」という言葉の語源をご存知ですか。

大根は食材として利用範囲が広く、どのような調理を行ってもめったなことでは食あたりしません。食あたりすることをおへ物に「あたる」と表現することと、役者が何かの演目や配役でヒットし、人気が出て成功することを「あたる」と表現することにかけて、役者としてあたる人をおへ物のようにあたるならない、「大根役者」と表現するようになったそうです。

“トミー”こと 富山先生をご紹介します

富山昌克(とみやまさかつ)さん



藤井寺市在住の園芸研究家。テレビやラジオへの出演や、学校での園芸教育・講演などを通して、ガーデニングの普及活動を行っています。

平成24年から藤井寺市緑化推進協議会委員、平成25年から藤井寺市景観審議会委員として、藤井寺市のまちづくりにも積極的に参加されています。

こちらの新コーナーは不定期で連載します。「ダイコンの育て方」の続きは、広報ふじいでら9月号に掲載します。